

【荻野小学校】説明会における質問・意見等の概要

1 参加人数

日付	会場	時間	参加人数
令和5年10月14日（土）	荻野小学校体育館	10時～	18人
		14時～	9人
合計			27人

2 意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	6件
------	----

3 質問・意見の概要

- …質問 ●…意見・要望 △…意見交換会後、意見提出用紙等で提出された質問等
→…質問、意見に対する回答

【質問】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- 2校に統合した場合、上荻野小の児童数が年々減るため、最終的には1校にするという流れになるのか。
→ もし、2校に統合した場合について、再度統合となると、児童や保護者に負担が掛かると考えていますので、当面の間、再編成は実施しないという考えです。
- 統合の流れとして、上荻野小と鳶尾小の2校に一段階目で統合して、いずれは鳶尾小に統合する流れが一番予算的にも無駄がないと考えるが、そうした段階を踏むことなく、一気に統合するということか。
→ 現状の考えとしては、将来的に1校になることを前提に、その前段階として2校に統合するという考えはありません。これは、環境の変化が2度あることが、児童や保護者の皆様に対して重い負担となると考えるためです。今回、二段階の方がよいという御意見もいただきましたので、こうした御意見が多いようであれば、御意見を踏まえ、二段階での統合も検討すべきと考えています。
- 全ての小学校が単学級になるのが令和14年ということで約10年後を想定しているが、統廃合するのは令和14年以降ということで、それを見据えて

計画を令和8年に策定するという考え方で良いのか。在校生への影響を考慮すると、現在の在校生には影響を与えない形で、統廃合するのは令和14年以降の話だと認識でよいか。

→ その通りでございます。ただ、検討を進める中で、保護者の皆様からもっと早い段階で実施した方が良いのではないかなどの御意見があれば、それを踏まえて検討する必要があると考えています。

○ 萩野地区以外でも統廃合の話は出ていると思うが、他地区でも統廃合の実施時期は同じか。

→ 実施時期については地区ごとに異なるものと考えています。説明資料の37ページにも記載していますが、実施時期の検討に当たっては、学級数の見込みや施設の修繕時期等を考慮し検討していく必要があると認識しています。小鮎地区を事例にあげると、学校の建て替え時期が近いこともあることと等から、検討に当たってはそれらを踏まえる必要があります。以上のことから、実施時期については地区により異なるものと認識しています。

○ 方策を実施する場合、いつ頃周知してもらえるのか。実施の前年とかに周知されることもあるのか。

→ スケジュールとしては、本意見交換会後に1年間ほど検討期間を設けております。この間、市として方策を一つに絞り、来年の今頃に改めて意見交換会を実施し、最終的な案を提示したいと考えています。その際には、具体的な実施時期をお示しする予定です。具体的に何年に方策を実施するかという話については、地域の皆様にも御参加いただく検討組織において検討いただくことを考えています。そこでの検討期間も1年程度を想定していますので、おそらく令和8年度くらいに内容が固まってくる見込みです。

○ 保護者への意見交換会の通知を見ると、1校に統合する場合も2校に統合する場合も鳶尾小の名前があるため、鳶尾小に統合する流れが濃厚なように感じる。鳶尾小の方が施設的に有利だとかそういう情報があれば教えてほしい。

→ 現状ではどの学校の敷地を優先で残していくという定まった考え方はありません。2校に統合する場合については、通学負担を踏まえ、地域内の位置的な関係により、北に位置する上萩野小と南に位置する鳶尾小を候補としているものです。施設面では、鳶尾小の方が、より施設が大きく、グラウンドも広いため、施設的には鳶尾小に優位性がありますが、一方で地理的にはか

なり地域の南の方に位置しており、その場合、通学においてかなりの人数がスクールバスを利用する状況になりますので、通学距離について十分考慮する必要があると考えています。また、説明資料 32 ページに記載のとおり、本市では小中一貫教育を推進しており、小・中学校の連携性の良さという点では、荻野中学校に近い荻野小学校に優位性があります。こうした点も含め、次の意見交換会等で、施設のみ、通学のみではなく、地域の学校としてどの学校の敷地を使用することが総合的な観点で望ましいかを整理した上で、案として提示させていただきます。

- 方策として、2校への統合または1校への統合とあるが、2校にした場合、今後も長期にわたって学校を維持していく見通しは立っているのか。
 - 説明資料 31 ページに、2校に統合した場合のそれぞれの比較を記載しておりますが、現状の案では、2校統合の場合、上荻野小と鳶尾小に統合を想定しています。その場合、荻野小学校の通学区域を再編し、上荻野小と鳶尾小に通うことになります。通学区域の再編に当たっては、現状では、お住まいからより近い学校の方に通っていただくことを想定しておりますが、上荻野小学校については児童の減少率が大きく、将来的に小規模化してしまいます。こうしたことから、市としては学校規模の観点から望ましいのは1校に統合する案だと考えています。ただ、荻野地域は縦長に広い地区であるため、上荻野小や鳶尾小の児童が、徒歩で荻野小まで通うのは難しいのではないかというお考えを持たれることを考え、3つの案を提示させていただき、皆様からの御意見を踏まえて検討したいと考えています。
- 市として、1校に統合する場合、現状ではどこにするのがベストという考え方はあるのか。
 - 市の考え方からすると、1校と2校のどちらかに統合するのであれば学校規模の観点を踏まえ、1校が望ましいと考えています。ただ、その中で、荻野小と鳶尾小のどちらが望ましいかについて、現時点では優劣は設けていません。説明資料にも記載したとおり、施設面では鳶尾小学校の方が敷地は広く教室も多くあります。一方、通学の負担、小中一貫教育の取り組みやすさという点では荻野小学校の方が優れたところもあると考えています。これについては、皆様がどういったところを一番重視されるのか、また、課題はどちらの方が少ないのかといった点を踏まえ検討し、最終的な案を提示させていただきたいと考えています。

(教育環境)

- 小中一貫の観点であれば、荻野中と荻野小が同じ敷地内に建つのがベストである。今の立地で、そのまま荻野小を残してもあまりメリットは多くないと感じる。同じ敷地内であれば、教員同士の交流も今までより密になり、児童・生徒の情報共有なども容易にできるが、敷地が別であれば、正直、鳶尾小でも荻野小でも、それほど変わらないと思う。また、市の考えでは一気に1校に統合する方が負担は少ないという話だったが、2校に統合してから1校にしていく方が、負担が少ないように感じる。
 - 荻野中の敷地での小中一貫校につきましては、現在、教育委員会で小中一貫教育の在り方について整理を進めていますので、その方向性を踏まえながら検討していきたいと考えています。
- 1校もしくは2校に統合した場合の学校全体のクラス数は分かったが、各学年のクラス数はどの程度か。
 - 各学年の学級数については令和11年度ぐらいまでであればお出しすることは出来ますが、それ以降の詳細の数字はありません。基本的には学年によってそれほど学級数に違いが出るわけではないので、基本的には全体の学級数を6学年で除した数が、1学年当たりの大体の学級数になるかと思います。
- 1学級当たりの望ましい児童数はどの位を想定しているのか。
 - 学級当たりの人数については国の基準で、小学校は1学級35人以下で編制することとなっています。本市でも国の基準に基づき、1学級当たり35人以下で編制しております。
- 厚木市として、1学級当たりの望ましい人数を設定した上で、何年後は何学級になるという検討を進めているのではないか。
 - 学級の編制及び教員の配置については、国の基準では、1学級35人以下で編制し、教員もその基準で編制された学級数に合わせて配置されます。もし仮に市が独自に少人数学級を実施する場合、追加で教員を配置する必要がありますが、その場合、追加分の教員については市費で雇用する必要があります。市が独自に教員を恒常的に雇用することは、人材の確保や財政的な負担を考えると課題が大きいものと考えます。市としても学級当たりの児童数は少ないことが望ましいと認識はしていますが、現実的に考えると国の基準に基づき学級編制を行っていく必要があると考えています。な

お、少人数学級の実現に向けては、国や県に対して要望を行っているところです。

- 国の学級編制の基準が 35 人以下だからその人数を基に学級数の議論をしていると思うが、国が基準を変更し 30 人以下とした場合、議論の内容を根底から変えることになるのか。
→ 国が学級編制の基準を大幅に変えるということであれば、そもそも国の学級編制の基本的な考え方を変えていくという話かと思いますので、その場合には、それも踏まえて改めて検討する必要があると考えています。一方で、今回、この取組を進めるに当たり、将来的には 30 人学級程度になることが想定されることから、その場合における学級数の試算は行っております。試算では 30 人学級になんて、それほど学級数は変わらないという結果でした。今後、国が 20 人学級や 15 人学級を進めるとなれば、方針を見直す必要があると認識していますが、30 人程度であれば、今の考え方に基づいて取組を進めていくものと考えています。
- 厚木市として学級当たりの人数は何人がベストだと考えているのか。
→ 市としても、1 学級当たりの児童数が少なくなれば、先生の目も行き届き望ましいものと考えています。その上で、繰り返しの回答になってしまいますが、Q&A の 4 ページ 2 番の (1) に記載したとおり、国が定める基準とは別に、市独自の基準を設定し、追加で教職員の配置等を永続的に実施していくことは課題が大きいものと考えています。学校現場では、現状でも人手不足で、産休等が出た場合にも代わりの教員を探すのが難しい状況にございます。一時的にではなく、永続的に教職員を採用していくことが出来るかとなると、市の独力でやっていくのはかなり難易度が高いものと認識しています。そうした点を考えると、基本的には国のもとで学級編制した上で、市として出来ることを追加で実施していくというのが現在の市の考え方です。
- 子どもの数が減ってきてても、学校の教員の数を維持すれば、先生一人当たりが見る子どもの数は減ってくる。何もしなくとも、教育としては、目が行き届くという状況になるのに、統合して人数を増やすと教育環境が悪くなるのではないか。
→ 学校の教員数は学校当たりで人数が決まっているわけではなく、学級数に応じて配置人数が変わります。例えば 12 学級の学校の場合、担任として教員が 12 人配置されますが、これが 6 学級に減った場合、12 人が維持される

わけではなく、6人に減じて配置されます。これは、35人学級につき1人教員が配置されるという国の基準に基づくものです。

- 学級数が減っても、今いる教職員を維持すればよいのではないか。現状でも市としてやっていっているのに、そうしてしまうと、市の財政は今後耐えられなくなるということか。
→ 教職員は県の予算で配置している県の職員であり、市費で配置しているものではありません。

(通学関係)

- 通学時間は距離で検討しているとのことだったが、通学路が気になる。国道は歩道が狭いという印象があり、また、車がかなりのスピードで走っているところを見かける。上荻野の方から長い時間を掛けて通学する児童の通学路はどこを想定して、車に対する対応や、通学時間について検討しているところがあれば、地図等を使って見せてもらいたい。
→ 通学路図については本日お見せできるものを持ち合わせていませんが、通学路に関する基本的な考え方として、中学校については、上荻野小の児童も、鳶尾小の児童も荻野中学校に通います。これらのことから、中学校の通学路を踏まえながら、各学校への通学路をイメージして検討をしています。ただ、上荻野小の北の地域に行くと距離がかなり長くなってしまいます。児童と生徒では体力もスピードも違いますので、この辺りについては、スクールバスでの通学の必要性について検討しています。また、危険箇所についても、生徒であればある程度自分で判断できても、児童においては心配な点もあるかと思います。通学路に関する危険箇所については、この取組に関わらず、教育委員会で毎年度情報収集していますので、方向性が定まった段階で、地域の皆様、保護者の皆様などから安全確保についてのお話を聞きながら必要な措置を検討していきたいと考えています。

(その他)

- 荻野地区を長いスパンで捉えた時に、将来の人の増減などについて、人口を増加させるための方策は検討しているのか。今後の減少の予測では、学校を維持できるレベルということか。
→ 市としても定住促進や出生率の向上に向け、まち・ひと・しごと創生総合戦略という計画を策定し、取り組んでいるところです。その中では、親元に近居・同居される方に補助金を出すなどの定住誘導策も実施しており、また、特に定住誘導を進める地域については、この荻野地区も対象になり

ますが、補助金の加算などを行っています。このまま学校を維持できるのかという点については、取組の過程で、地域の方から御意見をいただく中で、現在、立地している小・中学校について、各地区にそれぞれ1校ずつは維持していこうという考え方を持っております。学校を基盤として地域コミュニティが維持できるように取り組んでいこうというのが、現在の市の考え方です。

- 少子化の原因は子育てのしにくさによるものが一番多いという話を聞く。その観点から考えると、遠距離通学は、少子化対策とは逆行した方策であると感じる。その辺りについては市で議論しているのか。
→ 少子化対策という意味では、新市長が就任してから、学校給食費の無償化に向けた取組をはじめ、様々な取組によって、子育てしやすい環境の整備に向けて、市を挙げて取り組んでいます。その中で、学校が遠くなってしまうと子育てしにくくなるというのは、一理あると思います。ただ、子どもたちのより良い教育環境の整備という視点に立ったときに、小規模になってしまふよりは、沢山のお友達がいて、クラス替えができる教育環境を整備していくことが大切だと考えています。地域全体を見て、地域における学校の在り方として、どのような方向性が望ましいのかということを考え、今回の方向性案を御提示させていただいております。
- 現在、学童保育を利用している。荻野小は利用者が少なく、6年生まで預かってもらえると聞いているが、鳴尾小と上荻野小は学童に入る人数が多く、低学年を優先して入所させている状況と聞く。今回の統合の話を聞く前に入学し、荻野小で卒業できることを見越して仕事もしているが、統合した場合、学童保育の形はどうなるのか。民間を利用するとなる費用も高くなり、話が変わってくる。
→ 学童保育について、現時点では統廃合した場合における学童をどうするかについて具体的な調整までは進められておりません。ただ、学校の統廃合を検討していく中で併せて考えるべき課題だと認識しております。また、この検討に当たり、在校生への影響をよく考えなければならないと認識しています。方策の実施時期については説明資料37ページにも考え方を記載しておりますが、三つ目として挙げている、「学校統廃合に係る計画策定期点における在校生への影響」は、端的に言うと、計画が策定される前に入学した児童については、できる限り、入学した学校を卒業できるよう考慮して上で統廃合の実施時期を考えるという内容になります。実際に、方策を実施するのは令和14年ぐらいを目途に動いていますので、これから小学

校に入学する方については、将来的な方策方向性をお示しした上で、学童などについても検討を進めていきたいと考えています。

【意見】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- 資料や説明を聞き、考えていると2校統合はいろいろな面で、デメリットがあると思い、1校統合の方が良いと思った。Q&Aとか御意見を見ると子どもの安全というところを気にされている保護者が多く、私自身もそれは当たり前だと思っている。そうした場合、例えば、大規模災害が発生した場合、小・中学校又は広域避難場所で保護者への引き渡しということが起こると思うが、小学生と中学生を持つ保護者の場合、二つの学校に行くことになる。そうなった時、1小1中を検討するのであれば、荻野小と荻野中の近さを利用しない手はないと考える。教室数については現状では足りていないところがあるみたいだが、2019年度以降は確保できる見込みとのことなので、災害対応というのも資料として示してもらった上で検討できることないと感じた。

(教育環境)

- 今後資料を作成するに当たっては、市内他地区で小中一貫教育を実際にやってのメリット、デメリットも例示してもらえると、より理解が深まり検討の材料になるため良いと思う。
→ 現状の厚木市の小中一貫教育の現状としては小中連携教育に取り組んでいます。例えば中学校の教員が小学校に行って英語を教えるなどの事例がございますが、特定の中学校で先行して進めているという状況は現在ございません。ここでお示ししたとおり、荻野地区、そして小鮎地区については、トップランナーとして、先行的に小中一貫教育を進めていきたいと考えています。
- 厚木市は教育市を標ぼうしているのだから、学級当たりの人数は何人が一番適正なのかという指針を作り、国がどうこう言おうが、そこに向かって取り組んでいくということがあつても良いのではないか。また、今後の児童数の推計も現在の出生数が変わらずに推移することを想定しているように見えるが、厚木市や国の取組で出生率が上昇することも考えられる。こうした場合、学校を整備しなくてはいけないという話になる。一部ではなく、全体を見て取組を進めてほしい。
→ 児童数の推計については、国が出している推計値とは異なり、市が実施し

た施策により、出生率が上がり、定住も進み雇用も創出された場合において、これくらい増加が見込まれるという人数を記載しております。国の推計に則った推計だと、お示ししている数値から10%程度は人数が減少することも考えられます。そのため、市としては、このような人口推計の振れ幅を考慮に入れながら取り組んでいく必要があると考えています。

(通学関係)

- 統合された場合、通学時間が増えるのに伴い、スクールバスの乗り遅れや天候によっては保護者の送迎が増えることが想定される。現状でも朝の時間帯は送迎による路上駐車はとても多い。送迎者用のステーションのようなものを設置してもらえると近隣住民は助かる。
→ 現在、自家用車での送迎は想定していませんが、御意見のとおり、天候等により送迎が必要となる方が一定数出てくることも考えられます。そうしたことにも見据え、学校や保護者、地域の皆様の御意見を伺いつつ、車両の動線や、迷惑駐車防止の手法等の検討を進めてまいります。また、スクールバスを運行する場合については、発着場についても検討する必要がありますので、一体的に検討を進めていきたいと考えています。

(その他)

- 厚木市での統廃合の取組は、初めてということだが、全国的に見て同様な取組を実施しているところを、参考に見させていただきたい。実施した結果、どのような結果になったか、こういう問題が発生したといった事例をある程度示してもらえると、もっと意見も出やすいし、より良い方向に向けて考えていくのかなと思うので、前例等を調べてほしい。
→ 事例については、全国的に少子化が進んでいるため、各地域で行われています。直近の県内の事例についてQ&Aの8ページにある通り、例えば横浜市、相模原市、小田原市、南足柄などでは既に学校の統合を実施しています。近隣ではこのほかに、町田市や三浦市、二宮町なども取組を進めています。また、取組を先行的に行っているつくばみらい市の事例として、統廃合後のアンケートを実施しています。結果は、児童については、「友達がたくさんできた」などといった、肯定的な意見が70%程度でした。保護者については40%ぐらいが、「友達が多くなって良かった」と回答している一方で、40%ぐらいが「何とも言えない」という回答になっています。その中で、おそらく通学の負担の関係や、統合時における関係で一時的に大変だったという回答があったと記憶しています。教員についても新しい学校になって負担が増えてしまったという回答がありましたので、先行事例

を踏まえて、次の意見交換会でも、改めて情報提供させていただき、御意見をいただきたいと考えています。

【意見提出用紙による意見等】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- △ 子どもの交友関係など、高学年になるほど固定され難くなるため、2校（上荻野と鳶尾）分散されると親として不安である。通学区域の変更など柔軟に対応してもらいたい。個人的には荻野小1校にまとめられればそれがよい。
→ 教育委員会としても、適正規模の観点からは2校に統合するよりも1校に統合することがより望ましいと考えています。通学に係る児童への負担等を考慮しつつ、皆様の御意見を参考に検討を進めてまいります。
- △ 2校に統合する場合、鳶尾小と上荻野小とされている。説明には上荻野小が6学級になると記載もあるが、上荻野小と荻野小となる場合、学区の変更是あるのか。荻野小から始まり、鳶尾小、上荻野小ができた経緯があるので、歴史ある荻野小をなくすのは、どうなのか。
→ 上荻野小と荻野小の2校の敷地に統合する場合、鳶尾小の学区に居住する全ての児童が上荻野小より荻野小の方に通学距離が短くなるため、荻野小に通うことが想定されます。こうした場合、上荻野小学校の規模適正化につながらないため、2校統合については鳶尾小と上荻野小とする案をお示ししたものです。また、検討に当たっては、各校の歴史等も踏まえて検討していくべきものであると認識していますので、皆様の御意見を参考に進めてまいります。
- △ 想定される児童数（2032年）であれば、小中が近接した「荻野小学校1校」への統合が望ましいと思う。
→ 教育委員会としても、適正規模の観点からは2校に統合するよりも1校に統合することがより望ましいと考えています。学校の立地箇所については、小中一貫教育の観点からは荻野中に近接した荻野小に優位性があると考えていますが、施設面、敷地等については鳶尾小に優位性があることから、皆様の御意見を参考に、検討すべき要素のバランスを考慮しながら、方策の検討を進めてまいります。
- △ 市が1校統合の方針をお持ちであれば鳶尾小に絞るのが妥当。個人的には、2校（上荻野小・鳶尾小）⇒1校（鳶尾小）の緩やかな移行がよいかと思う。
→ 教育委員会としても、適正規模の観点からは2校に統合するよりも1校に統

合することがより望ましいと考えています。学校の立地箇所については、小中一貫教育の観点からは荻野中に近接した荻野小に優位性があると考えていますが、施設面、敷地等については鳶尾小に優位性があることから、皆様の御意見を参考に、検討すべき要素のバランスを考慮しながら、案の検討を進めてまいります。なお、2段階での統合の実施については、児童の教育環境の変化が複数回発生することによる児童や保護者への負担等を考慮し、現時点では段階的な統合は考えていませんが、皆様の御意見を参考に検討してまいります。

(教育環境)

- △ 小中一貫は大変良いと思う。立地的に荻野小学校は中学校と近接しているため、なくすべきではない。改修して整備し、モデル校としてほしい。2校に統合の場合、上荻野小と荻野小を残す案を希望。地理的に学区が狭い鳶尾小学校は荻野小へ統合することは考えられないか。荻野小のほうが中学校も近いし、一貫を考えメリットが多い（バラバラだと災害時混乱する）。現状の人数で考えるのではなく、地理的に考えるべき。
- 小中一貫教育に係る取組は本市でも推進しているところです。適正規模・適正配置の取組を進めるに当たっては今年度策定予定の（仮）小中一貫教育の考え方との整合を図りながら進めてまいります。2校に統合する場合については、児童の通学距離等を考慮し、地理的な関係から上荻野小と鳶尾小の敷地に統合する案をお示ししていますが、御意見を踏まえ、災害時対応等も考慮し、検討を進めてまいります。

- △ 個人的な意見だが、三田小の人数が多く、少人数にひかれてこちらに家を建てた。できればこのままがいい。
- 小規模学校については、児童の人間関係が固定することや、クラス替えができないことなどの課題もあるものと認識していますので、引き続き皆様の御意見をお伺いしながら検討を進めてまいります。なお、少人数学級については児童の学習環境として望ましいものと認識していますので、県を通じての国への要望を引き続き実施してまいります。